

主任コラム11月号

主任 澤井 良子

毎年9月からの来年度入所の申請と継続利用の申し込みが始まるに当たって、入所希望の方の見学や、支援センターに遊びに来られた方も、ながさわ保育園の園児の様子や保育環境を見てみたいと見学のご希望多く頂きます。その見学の中でお伝えしていることは、0・1歳児の保育室は個々の発達で主活動を分け、お部屋の環境も発達によって子ども達がゾーンを選び、ハイハイやつかまり立ちができるような発達段階の子どもたちが、興味・関心が持てるように手がつかまり立ちして目が届くところへおもちゃが置いてあります。2歳児は、運動面の発達で掴んで登る・跳ぶなどが動のゾーンで体験でき、ままごと遊びや、物を作るゾーン（ブロック）などでは人と関わり、つるむという人間関係が作れる環境を設定しています。3・4・5歳児では、自分たちでゾーンや活動を自分で選ぶ中でも、自分の思いを伝え、人の意見を聞き入れ共感する部分が育つようなピーステーブルなどを用いたゾーン環境もあることを伝えています。

そして【主体性】という言葉をよくこのコラムでもお伝えしていると思うのですが、主体性を持たせるために、私たち保育士は子どもたちからの発信を待つのではなく、子どもたちが気付くことのできるように仕掛けを保育の中につくこと・自分で考えて選んだと感じられることが大切だと見学の方にはお伝えしています。すべてが自由では放任されているのと一緒にです。人間には大人でも子どもでも社会があり、保育園の中でも子ども関係の中で役割や立場も存在します。それと同時にわがままを言っている場と、自分の思いが通らない場もあり、折り合いをつけていくという力も子ども集団の中で過ごす中でついていきます。そして、食事の場面では、食べさせてもらっていた事が、自分で食べたい物を口で手で掴んで食べるようになり、やがてフォークから箸へと移行し、0・1歳児まで食事中に立ちあがり、歩いてしまっていた子も座って食べる・・・という姿が、保育園での周りの友だちや家庭での環境の中でマナーとして子ども達自身が身につけていきます。そういった子どもの保育園の中の集団での姿や発達・環境を通して学び育っていく姿が、11月14日にあります「こっそり観てみようこどもの姿」と、子育て講演会の中でたくさん見ていただけたと思います。講師の先生のお話でより詳しく子どもの発達・保育園の役割や子どもたちに必要な力など聞いて頂けるとと思いますので楽しみにご参加ください。



運動会では、0歳児から5歳児までの運動の発達面にそった親子競技を見ていただきました。0歳児クラスの子でも、自分ができるコースやマットで見立てた山の高さを選ぶことができます。年齢が大きくなるにつれて、お家の方に見守れる中で自分ができに挑戦する姿ができ、特に5歳児の特技披露は見応えがありました。運動会だから・・・と特にリハーサルをせずに当日を迎えましたが、どの子もいい表情で参加できていたと思います。5歳児のお手伝いも普段からお手伝い保育で小さい子と関わっているので、とても丁寧に役割をこなしている姿が見ていただけたと思います。たくさんの声援や、ご協力ありがとうございました。